

| | | | | | | | |
|--|--|--------------------|---------------------------------|----------|-----------------------|------------------|-------|
| 番号 | 18 | 平成27年度公共事業事後評価調査 | | | 担当課名[農地整備課] | | |
| 事業名 | 畑地帯総合整備事業（担い手育成型） | | | 事業主体 | 静岡県 | | |
| 箇所名 | いまみや・ごうど 今宮・神戸 | | | 市町名 | 富士市 | | |
| 事業概要 | | | | | | | |
| 受益面積 | 135.6ha | 採択年度 | 平成11年度 | 完了年度 | 当初 実績 | 平成21年度 平成21年度 | |
| 事業費 | 前回 | 1,379百万円（H20計画変更時） | 実績 | 1,365百万円 | | | |
| 事業量 | 水源施設工 3箇所（ファームポンド、井戸、ポンプ） 畑地かんがい 面積135ha（用水管路 32,443m） 農道工 延長3,166m（幅員 5.4m） | | | | | | |
| 事業の目的・必要性 | | | | | | | |
| <p>本地区は、東西約2.0km、南北約1.0kmに広がる傾斜地であり、かんがい施設が無く地区内の農道は狭小のため農作業の効率が悪く、農業従事者は多大な負担を強いられていた。</p> <p>本事業では、畑地かんがい135haを基幹工事として併せて農道整備を行い、乗用型茶刈機等の導入による営農労力節減を図り、将来に希望のもてる担い手農家を育成することを目的とする。</p> | | | | | | | |
| 事業の効果等 | | | | | | | |
| 費用対効果 分析結果 | 前回 計画 変更 (H21) | B/C | 総費用 | 14.33 億円 | 総便益 | 17.79 億円 | 基準年 |
| | | 1.24 | （事業費：12.20 億円 再整備費等：2.13 億円） | | （食料安定供給確保効果：17.79 億円） | | 平成20年 |
| | 事後 | B/C | 総費用 | 16.53 億円 | 総便益 | 29.39 億円 | 基準年 |
| | | 1.77 | （事業費：13.65 億円 再整備費等：2.88 億円） | | （食料安定供給確保効果：29.39 億円） | | 平成26年 |
| <p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、単価及び係数の更新により、総費用・総便益が増加した。 <p>2) 事業効果の発現状況</p> <p><食料の安定供給の確保に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 農道整備により通作や農産物輸送に係る経費が削減した。 <ul style="list-style-type: none"> ※走行経費節減効果：（走行経費）事業前23,584千円⇒事業後14,616千円 農道整備により乗用型機械の導入が可能となり、摘採など営農に掛かる時間が節減した。 <ul style="list-style-type: none"> ※営農経費節減効果：（労働時間）事業前745時間/ha⇒事業後87時間/ha 畑地かんがいの導入により用水運搬に係る作業が軽減され、営農に掛かる時間が節減した。 <ul style="list-style-type: none"> ※営農経費節減効果：（防除用水運搬）事業前430時間/ha⇒事業後240時間/ha <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手への農地集積が促進した。 <ul style="list-style-type: none"> ※担い手農家への集積面積 H10：11.3ha(集積率8.3%) ⇒ H26：17.0ha(集積率12.5%) | | | | | | | |
| 事業により整備された施設の管理状況 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 農道は富士市、畑地かんがいは今宮神戸水利組合が適正に管理している。 <ul style="list-style-type: none"> ※日常管理は、事業実施中に立ち上げられた活動組織「今神倶楽部」が、ふじのくに美農里プロジェクトに取り組み、畑地かんがいの管理や景観作物の植栽など地域ぐるみで活動を行っている。 畑かん施設の機能診断・点検・草刈：年2回、畑かん施設補修修繕：年6回 農道の点検・草刈：年4回 | | | | | | | |

事業実施による環境の変化

- ・ふじのくに美農里プロジェクトの活動により、農業用水を防火用水として活用する取組を行っている。活動組織の構成員となっている地区の消防団が主体となって地域の中学生も参加する消火訓練を毎年実施している。また、同組織は、道路沿いに景観植物（ドーム菊、マリーゴールド等）を植栽しており、地元住民だけでなく、地域外の方が鑑賞に訪れるほど親しまれている。
- ・農地利用状況調査による今宮・神戸地区の耕作放棄地率は、平成20年度時点で3.8%だったが、営農が再開され平成26年度では0.4%と減少している。

社会経済情勢等の変化**(1) 地域社会の動向**

- ・平成24年4月に新東名高速道路が開通し、本地区周辺の幹線道路の整備も進められており、高速道路へのアクセス向上により交流人口の増が期待される。
- ・平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録され、国内外からの「富士山」に対する関心が高まっており、観光客の増が見込まれる。

(2) 地域経済の動向

- ・富士市は根付しきみの生産量全国一を誇り、今宮神戸地区を含む富士山南麓地域は一大生産地を形成している。3年の月日をかけて栽培される「根付しきみ」は、枝を切った「枝とりしきみ」と比較して日持ちが良く重宝されており、「富士しきみ」ブランドとして関西方面を主として全国に出荷されている。

対 応 方 針 (案)**(1) 評価結果**

- ・事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。
- ・農道、畑地かんがいの整備により、営農労力の節減のほか担い手農家への集積が進み、産地としての生産力強化が図られた。

(2) 今後の課題等

- ・産地の競争力強化に向け、担い手農家が地域における営農の大部分を担うべく、農地中間管理事業等を積極的に活用し、更なる農地集積と営農コストの縮減を図る必要がある。
- ・農業経営のさらなる安定化を図るため、畑地かんがいを利用する新規作物の導入と、茶と新規作物やその加工品との複合経営を研究する必要がある。
- ・周辺道路の整備により、新東名高速道路インターや東名高速道路インターとのアクセスの向上が期待されることから、交流人口の増大や農産物の販路拡大を図る取組を企画し、具体化していく必要がある。

(3) 同種事業への反映等

- ・本事業では、地域が求める営農形態に合わせて必要な整備を実施している。今後、同種工事においても、関係機関等を含めて営農方針について協議し、地域の特色を踏まえつつ効率的な整備を推進していく。

畑地帯総合整備事業(担い手育成型)今宮・神戸 事業効果

●事業効果の発現状況



富士山の麓の管理された茶産地



「富士しきみ」の産地



<農道工>
事業実施前

事業実施後



狭小な現況道路



トラックとの擦れ違いが可能

輸送距離の減少と平均輸送速度の向上により、営農に係る走行経費が約4割削減された。

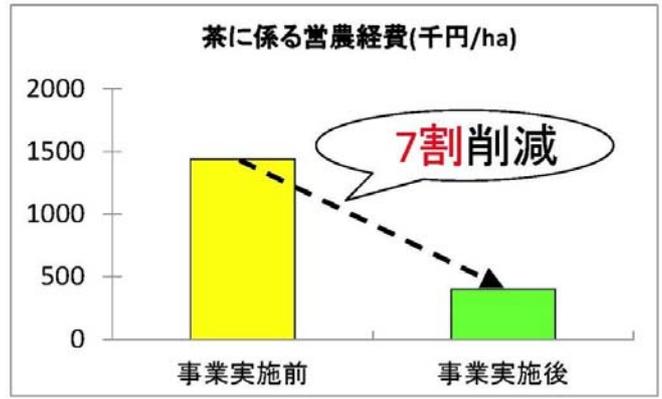
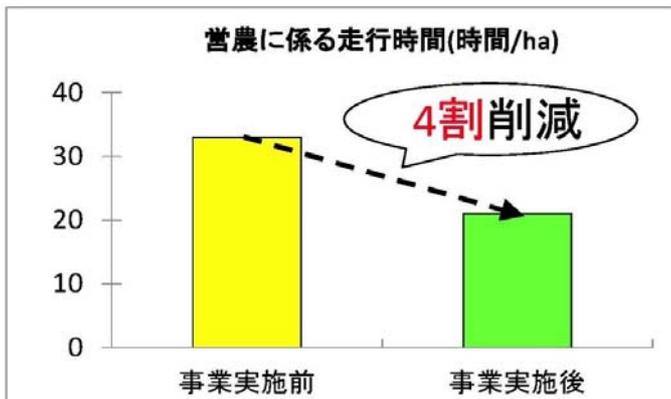


可搬式摘採機による作業



乗用型摘採機による作業

乗用型摘採機の導入により、茶に係る営農経費が約7割削減された。



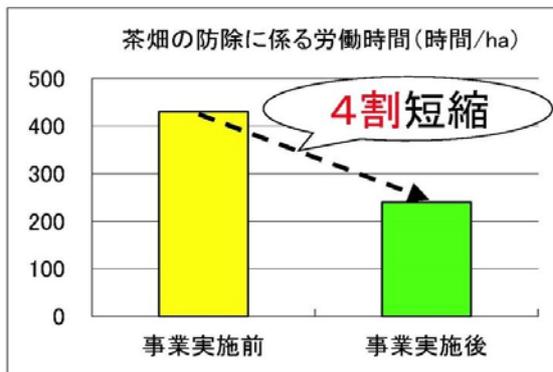
＜畑かん工＞
事業実施前



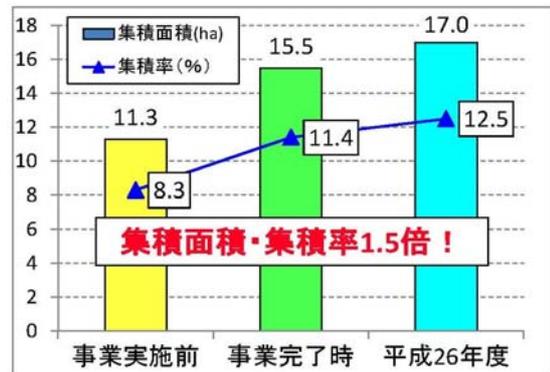
事業実施後



畑地かんがいの整備により給水栓からのかん水が可能



防除に係る労働時間が4割短縮

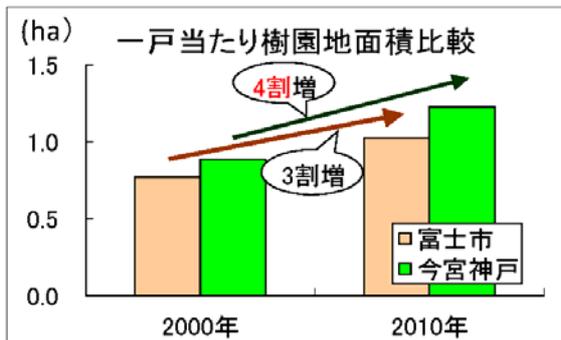


担い手農家への農地集積面積が1.5倍に増加

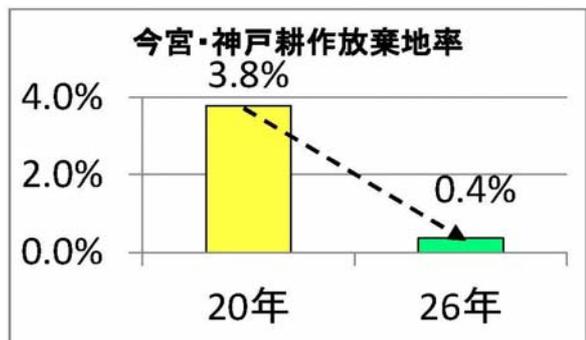
●事業実施による環境の変化



●社会経済情勢等の変化



(農林業センサによる)



(農地利用状況調査)